



国指定天然記念物  
川南湿原植物群落  
ガイドブック



川南町教育委員会

# 川南湿原の概要

川南湿原は、川南町のほぼ中央部に位置し、通称唐瀬原台地上にある。国道10号線から程近く、標高はおよそ50m前後、面積は32,996㎡で新橋溜池から東に植物群落広がる。

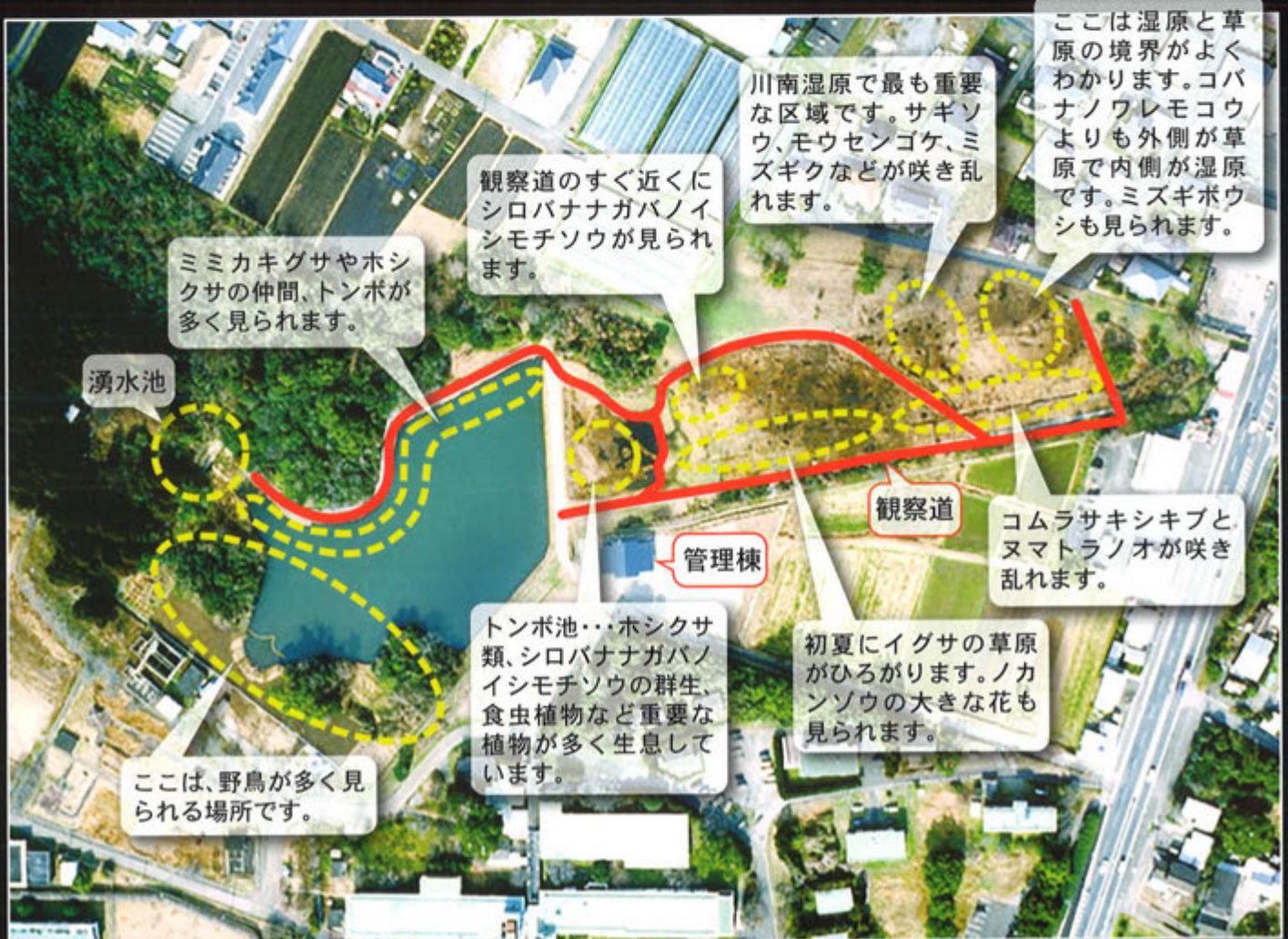
昭和49年に国指定天然記念物となり、植物の種類は、78科298分類で、湿生植物が約110種類、うち約50種類が希少植物である。

名 称	国指定天然記念物 川南湿原植物群落
指 定 年 月 日	昭和49年6月11日 指定
面 積	約33,000平方メートル
所 在 地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19403-14
植 物 の 種 類	78科298分類で、湿生植物が110種類、うち希少植物約50種類

川南湿原は、新橋溜池から東に湿原植物群落が広がり、川南の大地をくぐった水が地表に届き、一帯を湿らせている。昭和29年に貴重な植物が繁茂していることが明らかになり、昭和41年9月に県指定天然記念物に、昭和49年6月に国指定天然記念物に指定された。

川南湿原の歴史は、湿原の地層から約3万年前に始まったと考えられ、その約3万年の間に気温や環境の変化で湿原は、拡大、縮小を繰り返してきた。平成元年頃から湿原の環境悪化が顕著になり、平成7年から平成22年にかけて植物の保護を目的に調査や整備を行い、平成22年度からは、一般に開放している。現在、湿原環境の改善も進んでおり、さまざまな湿原植物の増殖及び復活が確認されている。

一般開放後は、観光地としてはもちろんのこと、町民の憩いの場、小中学生の環境学習の場として活用されるなど、多くの方が訪れ、静かな環境の中の散策を楽しんでいる。



## 川南湿原の四季

川南湿原は、春のハルリンドウ・トキソウに始まり、夏のシロバナナガバノイシモチソウやミズギクなどの希少植物、秋には日本唯一の自生ヒュウガホシクサをはじめとするホシクサ類が来場者の目を楽しませる。冬の閉園後は、草刈りや野焼きなど新たな芽吹きに向け、保全活動が行われる。

春



夏



秋



冬



## 川南湿原の保全活動

川南湿原は、平成15年に川南湿原の保護を目的に設立されたボランティア団体「川南湿原を守る会」の活動を中心に多くの方々の協力により守られている。川南湿原を守る会は、園内の監視、案内、環境整備、植物の保護に取り組んでおり、年間を通じての草刈り、閉園期間の園内一斉草刈り、草出し作業、火入れなど植物の保全及び新たな植物の芽吹きに向け活動している。

長年にわたる活動により、希少種の生息範囲、生息数が増加するなど地道な努力が実を結んでおり、湿原を取り巻く環境の改善が進んだことから、様々な湿原植物の増殖及び復活が確認されている。



# 川南湿原で主に4～6月に見られる植物

植物名	イ		
	説明		
	先のとがった細い茎ばかりが束になったような姿をしており、畳表を作るのに使われる。この針状のものは花茎にあたり、茎は地下茎となって泥の中で短く這っている。		
分類	イグサ科	花期	4月

植物名	サクラバハンノキ		
	説明		
	落葉小高木で全国的に少ない(準絶滅危惧種)。湿地に生えるハンノキの仲間。葉がサクラに似ていることに由来する。九州では、宮崎県だけに見られる希少種		
分類	カバノキ科	花期	花(2月～3月)、実(4月)

植物名	ヘビノボラズ		
	説明		
	枝に3本の鋭いトゲがあり、ヘビも登れないことからヘビノボラズという。果実は秋に赤く熟する。西日本では宮崎県(児湯地域)だけに見られる希少種		
分類	メギ科	花期	4月

植物名	ハルリンドウ		
	説明		
	高さ10cmほどで茎の先端に紫色の花(2～3cm)をつける。朝、日光を受けると開花し、夕方に閉じる。※時期により群生で見られる。		
分類	リンドウ科	花期	4月～5月

植物名	コモウセンゴケ		
	説明		
	日当たりのよい酸性湿地に生える。葉はシャモジ型で地面に広がる(群生していると赤いじゅうたんのように見える。)。葉に赤い腺毛があり、腺毛から粘液を出し、葉にやってきた虫を捕える。食虫植物		
分類	コモウセンゴケ科	花期	4月～8月

植物名	ヤマトミクリ		
	説明		
	花茎は長さ15～17cmで枝分かれせず直立する。一つの茎に果実が5～6個並んで形成される。名前の由来は、果実が栗のイガに似ており、特に大和地方に多いことによる(関東以東には少ない)。		
分類	ミクリ科	花期	5月～6月

植物名	トキソウ		
	説明		
	茎頂に紅紫色の花を1個つける。花の色がトキ(朱鷺)の翼の色に似ていることに由来する。※時期により群生で見られる。		
分類	ラン科	花期	5月～6月

植物名	ノハナショウブ		
	説明		
	紫色の美しい花を咲かせる。栽培種ではなく、野生種(原種)である。川南湿原で咲く花の中ではかなり大型で、観察道の近くでも見られる。現在では、40～50株ほど確認できる。		
分類	アヤメ科	花期	5月～6月

# 川南湿原で主に6～8月に見られる植物

植物名	コムラサキシキブ		
	説明	樹形は横に広がり、枝が弧を描くように伸びる。初夏に淡紫色の花をつけ、秋には紅紫色の実をつける。	
分類	クマツヅラ科	花期	6月～7月

植物名	コバノトンボソウ		
	説明	北海道から九州まで分布する。花は黄緑色でトンボが止まっているように見え、葉は一枚である。	
分類	ラン科	花期	6月～7月

植物名	モウセンゴケ		
	説明	茎はごく短く地面から放射状に葉を出す。葉には柄があり、葉身はほぼ円形で一面に長い毛があり、その先から甘い香りの粘液を分泌して、虫を捕獲する。 <b>食虫植物</b>	
分類	モウセンゴケ科	花期	6月～7月

植物名	ノカンゾウ		
	説明	花の形はユリに似ていて、橙(だいたい)色をしている。花は一日花で、朝開き夕方にはしぼむ。別名ワスレナグサ	
分類	ススキノキ科	花期	6月～7月

植物名	ヌマトラノオ		
	説明	地下茎を伸ばして増える。沼地に生息し、花穂は真っすぐで曲がらない。直立した茎先に総状花序を出し、白い花をつける。 ※時期により群生で見られる。	
分類	サクラソウ科	花期	6月～7月

植物名	ノギラン		
	説明	葉は細く束になり10枚程で、長さ8～20cmほど広がり、先がとがっている。花びらは黄緑色で上向きに咲き、花後は落ちない。	
分類	キンコウカ科	花期	6月～8月

植物名	シロバナナガバノイシモチソウ		
	説明	葉から生える長い繊毛の先から粘液を分泌し、捕虫する。立ち上がる姿がイシモチソウに似ていることが名前の由来である。 <b>食虫植物</b> 西日本では川南湿原だけに分布	
分類	モウセンゴケ科	花期	6月～8月

植物名	ユウスゲ		
	説明	多年草植物で黄色い花をつける。夕方に開花し、翌日の昼には閉じることから名前がついた。	
分類	ススキノキ科	花期	6月～7月

# 川南湿原で主に6～9月に見られる植物

植物名	ミズギク		
	<p>説明</p> <p>花径3～4cmの黄色い花を1輪だけつける。競争力が弱いので、ほかの植物のあまり生えない場所に生育する。 西日本では、川南湿原だけに見られる希少種</p>		
分類	キク科	花期	6月～8月

植物名	カキラン		
	<p>説明</p> <p>葉は茎に互生し、黄褐色の花を茎の先に10個つける。花の色が柿の色に似ていることが名前の由来である。</p>		
分類	ラン科	花期	6月～7月

植物名	コキンバイザサ		
	<p>説明</p> <p>コキンバイザサは、花茎が5cmくらいあり、葉が細い。花は1.5cm程度である。</p>		
分類	キンバイザサ科	花期	5月～7月

植物名	ヒメナエ		
	<p>説明</p> <p>日当たりの良い低湿地に生育する小型の一年草。茎は軟弱で、下部はときに分枝し、葉とともにほとんど無毛。白色の小さな花をつける。</p>		
分類	マチン科	花期	7月～9月

植物名	サギソウ		
	<p>説明</p> <p>湿地性の多年草で、全国的に分布し、白い花をつけ大変人気がある植物である。シラサギが翼を広げた形に似ていることが名前の由来である。</p>		
分類	ラン科	花期	8月～9月

植物名	ミカワタヌキモ		
	<p>説明</p> <p>湿地、溜池に生育する繊細で糸状となる多年草植物。水中に浮遊状態で生育している。花は黄色で、葉に捕虫囊がつく。 別名イトタヌキモ 食虫植物</p>		
分類	タヌキモ科	花期	8月～9月

植物名	ミズオトギリ		
	<p>説明</p> <p>1cmくらいの淡い赤色の花をつける。秋には、葉、茎、実が真っ赤に紅葉する。</p>		
分類	オトギリソウ科	花期	8月～9月

植物名	ヒメオトギリ		
	<p>説明</p> <p>低山や丘陵部の湿地、溜池畔、休耕田に生育する。茎は直立して無毛である。花は8mmほどで午前中、特に朝方に開花する。</p>		
分類	オトギリソウ科	花期	6月～8月

# 川南湿原で主に6～10月に見られる植物

植物名	ムラサキミミカキグサ		
	説明	湿原に生育する小型の植物で、花茎の先端に紫色の小さな花をつける。地下茎に捕虫囊をつけ、プランクトン等を捕食する。 <b>食虫植物</b> ※群生で見られる。	
分類	タヌキモ科	花期	6月～8月

植物名	ミミカキグサ		
	説明	湿原に生育する小型の植物で、花茎の先端に黄色の小さな花をつける。地下茎に捕虫囊をつけ、プランクトン等を捕食する。 <b>食虫植物</b> ※群生で見られる。	
分類	タヌキモ科	花期	6月～8月

植物名	ネジバナ		
	説明	茎先にねじれた花序をつける。花の色は淡い紅色だが、色の濃いものから薄いものまで変化が多い。この湿原では、2つの型が見られる。	
分類	ラン科	花期	6月～8月

植物名	ホソバミズヒキモ		
	説明	溜池、水路に生育する浮葉植物。細い地下茎は水底中を這い、水中茎はよく分枝する。	
分類	ヒルムシロ科	花期	5月～9月

植物名	ミカワシンジュガヤ		
	説明	湿地に生える一年草。茎は断面が三角形。真珠のような果実は直径約2mmである。	
分類	カヤツリグサ科	花期	7月～8月

植物名	シロイヌノヒゲ		
	説明	ホシクサの仲間。湿地に見られる一年草。頭花は大型で、白色の短毛が多い。花序は星形である。犬の髭に似ている。	
分類	ホシクサ科	花期	9月～10月

植物名	サワヒヨドリ		
	説明	茎が直立し高さが50cm程度で日当たりのよい湿地に生える。花は、8月から10月にかけて咲き、淡い紅紫色を帯びるのが通常であり、色の濃いものからほぼ白色のものまである。	
分類	キク科	花期	8月～10月

植物名	ヒメノボタン		
	説明	沖縄、九州、四国、和歌山県のごく一部に自生する。花は、比較的大ぶりの5cm程の紅紫色でボタンより小型である。	
分類	ノボタン科	花期	8月～10月

# 川南湿原で主に9～10月に見られる植物

植物名	ミズギボウシ		
	<p>説明</p> <p>細長い花茎を出し、4cm程度の大きさで薄紫色の花(細長いラッパ状)をまばらにつける。川南湿原で見れる大きさは珍しい。九州では宮崎県(児湯地域)だけに見られる希少種</p>		
分類	キジカクシ科	花期	9月～10月

植物名	ミズコバギボウシ		
	<p>説明</p> <p>ミズギボウシとコバギボウシの雑種。両親より大型となり、実はほとんどつけない。</p>		
分類	キジカクシ科	花期	9月～10月

植物名	コバナノワレモコウ		
	<p>説明</p> <p>花の長さは、5cm程度。白花のコバナノワレモコウ、赤色のコバナノワレモコウがある。一般のワレモコウ(原野の植物)と違い、湿原植物である。</p>		
分類	バラ科	花期	9月～10月

植物名	ヒュウガホシクサ		
	<p>説明</p> <p>ホシクサ(星草)は、花序が星のように見える。約50年前に絶滅とされていたが、長年の保護活動により近年自生が確認された。日本では川南湿原でしか見ることができない。</p>		
分類	ホシクサ科	花期	9月～10月

植物名	タムラソウ		
	<p>説明</p> <p>花は、紅紫色でアザミに似ているが、トゲはなく、葉の形も違う。四国・本州から九州にかけて分布する。</p>		
分類	キク科	花期	9月～10月

植物名	スイラン		
	<p>説明</p> <p>茎は細く、よく分枝し、赤身を帯びることが多い。頭花は径3～3.5cmの黄色で上を向き咲く。葉や花が春蘭に似ており、湿地に生えることからスイランと名がついた。</p>		
分類	キク科	花期	9月～10月

植物名	クロホシクサ		
	<p>説明</p> <p>小さい花が集めた頭花は球形で、藍黒色である。群生しているところは星空みたくに見える。</p>		
分類	ホシクサ科	花期	9月～10月

植物名	ハラヌメリ		
	<p>説明</p> <p>絶滅危惧種に指定されている。日本では宮崎県(児湯地域)だけに見られる。</p>		
分類	イネ科	花期	9月～10月



# 川南湿原で主に9～11月に見られる植物

植物名	ツクシクロイヌノヒゲ		
	説明	主に貧栄養な溜池畔に生える無茎の一年草。花茎は、葉よりやや長く、頭花は4～5mmで、藍黒色又は黒色である。	
分類	ホシクサ科	花期	9月～10月

植物名	サワシロギク		
	説明	本州から九州に分布する多年草。長く伸びた(7～17cm)花茎上に3cmほどの花をつける。花は初め白色であるが、次第に赤色を帯びてくるのが特徴	
分類	キク科	花期	9月～10月

植物名	エダウチシロホシクサ		
	説明	常緑性で春先から開花する特異なホシクサである。茎が長く、枝を打つので株が広がる。 <b>川南湿原の固有種</b>	
分類	ホシクサ科	花期	4月～10月

植物名	ヒロハイヌノヒゲ		
	説明	無茎の一年草で葉が広く、頭花が茶色である。	
分類	ホシクサ科	花期	9月～10月

植物名	ホソバリンドウ		
	説明	湿地に生えるリンドウの一品種。リンドウよりも葉幅が狭いことから名付けられた。花は鮮やかな青紫色で陽が当たらないと開花しない。	
分類	リンドウ科	花期	10月

植物名	クロタマガヤツリ		
	説明	溜池畔や湿地などに生育する一年草。全体に軟らかい毛がある。分布は広いが、稀な植物である。花穂が黒い珠状になるのでこの名がある。	
分類	カヤツリグサ科	花期	9月～10月

植物名	ヤマラッキョウ		
	説明	地下に球根があり、根際から数枚の円柱形をした細い葉を出す。茎の先に紅紫色の花を球状にたくさんつける。名前は山に生えるらっきょうだが、食用にはされていない。	
分類	ユリ科	花期	10月～11月

植物名	ウメバチソウ		
	説明	川南湿原で最も遅く咲く花。梅鉢は家紋の一つで菅原道真や前田利家の家紋として知られる。白い花びらに筋があり、真上から見ると梅鉢のように見えることが名前の由来である。	
分類	ユキノシタ科	花期	10月～11月

# 川南濕原觀察道



湧水池

7

6

5

1

管理棟

駐車





4

3



2



※ 主な順路 … 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7

※  … 観察道

# 川南湿原のトンボ

川南湿原では、湿生植物以外にもさまざまな昆虫を見ることができる。特に、トンボは、47種以上が確認されている。

川南湿原で見られる特徴的なトンボとして、最小種のコフキヒメイトトンボ、県絶滅危惧種に指定されているベニイトトンボなどイトトンボの仲間が多く見られる。

## 川南湿原で確認されているトンボ(47種類)

2016年度調査による

### 【アオイトトンボ科】2種

ホソミオツネトンボ  
オオアオイトトンボ

### 【カワトンボ科】2種

ハグロトンボ  
アサヒナカワトンボ

### 【モノサシトンボ科】1種

モノサシトンボ

### 【イトトンボ科】9種

コフキヒメイトトンボ  
キイトトンボ  
ベニイトトンボ  
リュウキュウベニイトトンボ  
アジアイトンボ  
アオモンイトトンボ  
クロイトトンボ  
セスジイトトンボ  
ムスジイトトンボ

### 【ヤンマ科】6種

コシボソヤンマ  
カトリヤンマ  
ヤブヤンマ  
マルタンヤンマ  
クロスジギンヤンマ  
ギンヤンマ

### 【サナエトンボ科】4種

ヤマサナエ  
オナガサナエ  
タイワンウチワヤンマ  
ウチワヤンマ

### 【オニヤンマ科】1種

オニヤンマ

### 【ヤマトンボ科】1種

オオヤマトンボ

### 【トンボ科】21種

ハラビロトンボ  
シオカラトンボ

シオヤトンボ  
オオシオカラトンボ  
ショウジョウトンボ  
コフキトンボ  
スナアカネ  
ミヤマアカネ  
ナツアカネ  
アキアカネ  
マユタテアカネ  
リスアカネ  
コノシメトンボ  
ノシメトンボ  
ネキトンボ  
キトンボ  
ベニトンボ  
コシアキトンボ  
ウスバキトンボ  
ハネビロトンボ  
チョウトンボ

### ハグロトンボ



細長く、黒っぽい翅をもったヒラヒラと飛ぶトンボ。体長約57~67mm  
5月~11月

### モノサシトンボ



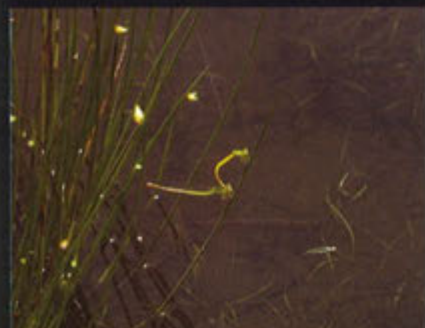
腹部にメモリのよう模様があるのが特徴である。半日陰の水のたまった場所に多く見られる。体長約45mm  
5月~8月

### コフキヒメイトトンボ



川南湿原で見られるイトトンボの中で最小である。雄は成熟すると粉をふくところが名前の由来。体長約20mm  
5月~10月 宮崎県準絶滅危惧種

### キイトトンボ



雄は体色が黄色で大変目立つ。雌は淡い色をしている。  
体長約25~35mm  
5月~9月

### ベニイトトンボ



全身が赤いトンボ。生息地が局地的であり、絶滅危惧種に指定されている。体長約40mm  
5月~9月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類

### アオモンイトトンボ



腹部先端が青色のイトトンボ。川南湿原でよく見られる一種である。  
体長約30~35mm  
4月~11月

### セスジイトンボ



通常ゆるやかな流れのある小川に生息するが、川南湿原では豊富な湧水により生息が可能となっている。体長約27~37mm 4月~9月 宮崎県準絶滅危惧種

### ギンヤンマ



宮崎県内、川南湿原で最もよく見られるヤンマである。夏以降に季節風とともに集団でくることがある。体長約70mm 5月~11月

### タイワンウチワヤンマ



南方系の大型のサナエトンボの仲間である。体長約70~81mm 7月~10月

### ハラビロトンボ



主に春から初夏にかけて発生するトンボである。腹部の腹が広く、ポテットした感じのトンボ。体長約31~39mm 4月~9月

### シオカラトンボ



最も親しまれているトンボ。雄の体の白粉が塩昆布の塩にみたてられてたことが名前の由来。体長約50~55mm 4月~10月

### オオシオカラトンボ



シオカラトンボより体がガッチリしている。翅の基部に暗色斑のあることで判別できる。体長約52~61mm 5月~9月

### ショウジョウトンボ



全身が真っ赤で究極の赤いトンボ。雄は、縄張り意識が強く攻撃的である。体長約41~53mm 5月~11月

### ミヤマアカネ



前後の翅に帯状褐色紋のある美しいトンボ。夏の間は、樹林周辺で過ごし、9月以降に湿原内へ移動する。体長約30~40mm 6月~12月

### マユタテアカネ



顔に眉のような黒い斑紋がある。5月には涼しい樹林下で過ごし、8月下旬に真っ赤な成熟個体が出現する。体長約31~43mm 6月~12月

### ベニトンボ



宮崎県内へは1999年に侵入した新しい種のトンボ。適応力が強く、瞬く間に県内へ広がった。体長約40mm 5月~12月

### コシアキトンボ



腹部の基部に乳白色であたかも空いているように見えるところが名前の由来である。日の当たらないところで活発に飛ぶ。体長約41~50mm 5月~8月

### チョウトンボ



翅のほとんどが濃紫色でフワフワ飛ぶところから一見して分かる。水面上を長い時間飛翔していることが多い。体長約31~42mm 6月~10月

## 川南湿原の鳥、昆虫など



マガモ



カイツブリ



オオバン



メダカ



オオウナギ



カナヘビ



アカガエルの仲間



アゲハチョウ



ツマグロヒョウモン

## 川南湿原の観察の様子





## 川南湿原の位置図



### 交通アクセス

#### 《自動車》

東九州自動車道 都農 ICから約15分 高鍋 ICから約10分  
 福岡から4時間10分(九州道・大分道・東九州道)  
 熊本から3時間(九州道・宮崎道・東九州道)  
 大分から2時間20分(東九州道)  
 鹿児島から2時間20分(九州道・宮崎道・東九州道)

#### 《飛行機》

東京→宮崎空港 約1時間50分  
 大阪→宮崎空港 約1時間5分  
 福岡→宮崎空港 約45分



## 川南湿原開園期間

### 【開園期間】

4月15日から11月30日まで

### 【開園時間】

4月～ 9月…9時から17時まで  
 10月～11月…9時から16時まで

- 開園時間は、管理上の都合で変更することがあります。
- 月曜日、8月13日から15日は、閉園します。
- 管理上、急ぎよ閉園する場合があります。

## お願い・注意事項

- マナーを守り、きれいに利用し、観賞しましょう。
- 動物や植物の採取及び持込みは、禁止です。  
(園内での採取は、犯罪行為です。)
- ゴミは、お持ち帰りください。
- ペット同伴の入園は、ご遠慮ください。
- 園内での飲酒・喫煙は、禁止です。
- 観察道以外は、立入禁止区域です。  
絶対に立ち入らないでください。
- 園内では、マムシ等の危険な野生生物に十分注意してください。
- 園内では、係員の指示に従ってください。

<お問い合わせ>

川南町教育委員会 教育課

発行 平成30年3月

TEL 0983-27-8020 / FAX 0983-47-0503

<川南町役場ホームページ> <http://www.town.kawaminami.miyazaki.jp/>